



Sun Fire™ V210 および V240 サーバー設置マニュアル

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 819-4949-10
2005 年 12 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, Sun Fire, Java, OpenBoot は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典:	Sun Fire V210 and V240 Servers Installation Guide
	Part No: 819-4209-10
	Revision A



目次

はじめに ix

1. Sun Fire V210 および V240 サーバーの設置の概要 1
 - 設置作業の概要 1
 - 出荷キットの内容確認 3
 - Sun Advanced Lights Out Manager ソフトウェアの使用 3

2. ハードウェアの取り付け 5
 - ラックマウントキットの内容 5
 - 使用できるラック 5
 - スライドレールの取り付け 6
 - ▼ スライドレールを分解する 6
 - ▼ 固定部品をサーバーに取り付ける 7
 - ▼ スライドレール部品をラックに取り付ける 8
 - ▼ サーバーをスライドレール部品に取り付ける 8
 - ケーブル管理アームの取り付け 10
 - ▼ ケーブル管理部品を取り付ける 10
 - ▼ スライドレールおよび CMA の動作を確認する 12

3. サーバーの電源投入と設定 15
 - 状態インジケータの理解 15

サーバーへの電源投入 17

- ▼ キーボードを使用して電源を入れる 17
- ▼ オン/スタンバイボタンを使用して電源を入れる 18
- ▼ オン/スタンバイボタンを使用してシステムの電源を切る 19

サーバーの設定 20

- ▼ ネームサーバーに登録されているサーバーの詳細情報を利用して設定する 20
- ▼ ネームサーバーに登録されているサーバーの詳細情報を利用せずに設定する 21
- ▼ スタンドアロンサーバーをはじめて設定する 22

構成情報の消去 22

- ▼ 構成情報を消去する 22

Sun Advanced Lights Out Manager ソフトウェアへのアクセス 23

- ▼ ALOM プロンプトを表示する 23
- ▼ コンソールプロンプトを表示する 24

図目次

- 図 2-1 取り付け前のスライドレールの分解 7
- 図 2-2 ラックポストへのスライドレール部品の取り付け 8
- 図 2-3 固定部品を取り付けたサーバーのスライドレールへの挿入 9
- 図 2-4 左側スライドレールの背面部分への CMA レール拡張部品の挿入 10
- 図 2-5 右側スライドレールの背面部分への CMA 固定部品の挿入 11
- 図 2-6 レール拡張部品のコネクタへの CMA アームの接続 11
- 図 2-7 CMA ケーブルハンガーの取り付け 12

表目次

表 3-1	サーバーの状態インジケータ	16
表 3-2	ハードドライブのインジケータ	16
表 3-3	ネットワークリンクインジケータ	16
表 3-4	ネットワーク速度インジケータ	17

はじめに

このマニュアルでは、Sun™ Fire V210 および V240 サーバーのラックへの搭載、ケーブル接続、および構成の手順について詳細に説明します。

お読みになる前に

このマニュアルに記載されている手順を実行する前に、設置場所を準備し、最新の『ご使用にあたって』を読んでおく必要があります。設置作業を開始する前に、次のマニュアルを参照してください。

- 『Sun Fire V210 および V240 サーバーご使用の手引き』
- 『Sun Fire V210 and V240 Servers Product Notes』
- 『OpenBoot PROM Enhancements for Diagnostics Operation』
- 『Sun Advanced Lights Out Manager Software User's Guide』

これらのマニュアルの参照先については、xii ページの「関連マニュアル」を参照してください。

『Sun Fire V210 および V240 サーバーご使用の手引き』に記載されているように、Sun™ のプリインストールソフトウェアのサイトにアクセスして、特定の構成手順、ソフトウェアアップデート、および新しくリリースされたパッチを確認する必要があります。この作業を行うためには、インターネットにアクセスできる必要があります。インターネットにアクセスできない場合は、ご購入先に問い合わせ、手順書、アップデート、およびパッチのコピーを入手してください。

マニュアルの構成

第 1 章では、設置作業の説明、出荷キットの内容一覧、および Sun Advanced Lights Out Manager ソフトウェアの使用法の概要について説明します。

第 2 章では、ラックマウントキットの一覧、使用できるラックの一覧と、サーバーのラックへの搭載、ケーブル管理アームの取り付け、サーバーのケーブル接続、および設置の確認の手順について説明します。

第 3 章では、状態インジケータの概要と、サーバーの電源投入、コンソールの接続、およびプリインストールソフトウェアの構成の手順について説明します。

UNIX コマンド

このマニュアルには、システムの停止、システムの起動、およびデバイスの構成などに使用する基本的な UNIX® コマンドと操作手順に関する説明は含まれていない可能性があります。これらについては、以下を参照してください。

- 使用しているシステムに付属のソフトウェアマニュアル
- 下記にある Solaris™ オペレーティングシステムのマニュアル

<http://docs.sun.com>

シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	<i>machine_name%</i>
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	\$
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	#

書体と記号について

書体または記号*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	% su Password:
<i>AaBbCc123</i>	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「 」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING '

* 使用しているブラウザにより、これらの設定と異なって表示される場合があります。

関連マニュアル

オンラインのマニュアルは、次の URL で参照できます。

<http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/>

用途	タイトル	Part No.	形式	場所
ご使用の手引き	『Sun Fire V210 および V240 サーバーご使用の手引き』	819-4919	PDF、HTML、および印刷版	オンラインおよび付属品キット (英語版のみ)
管理	『Sun Fire V210 および V240 サーバー管理マニュアル』	819-4939	PDF および HTML	オンライン
保守	『Sun Fire V210 および V240 サーバーサービスマニュアル』	819-4929	PDF および HTML	オンライン
安全性および適合性	『Sun Fire V210 and V240 Safety and Compliance Manual』	817-4827-12	PDF および HTML	オンライン
最新情報	『Sun Fire V210 and V240 Servers Product Notes』	819-4205	PDF および HTML	オンライン
OpenBoot™ PROM	『OpenBoot PROM Enhancements for Diagnostics Operation』	817-6957	印刷版	付属品キット
ALOM	『Sun Advanced Lights Out Manager Software User's Guide』	817-5481	PDF および HTML	オンライン

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL
マニュアル	http://jp.sun.com/documentation/
サポート	http://jp.sun.com/support/
トレーニング	http://jp.sun.com/training/

Sun 以外の Web サイト

このマニュアルで紹介する Sun 以外の Web サイトが使用可能かどうかについては、Sun は責任を負いません。このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、広告、製品、またはその他の資料についても、Sun は保証しておらず、法的責任を負いません。また、このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、商品、サービスの使用や、それらへの依存に関連して発生した実際の損害や損失、またはその申し立てについても、Sun は一切の責任を負いません。

コメントをお寄せください

マニュアルの品質改善のため、お客様からのご意見およびご要望をお待ちしております。コメントは下記よりお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

『Sun Fire V210 および V240 サーバー設置マニュアル』、Part No. 819-4949-10

第1章

Sun Fire V210 および V240 サーバーの設置の概要

この章では、Sun Fire サーバーについて説明し、設置作業の概要を示します。この章は、次の節で構成されています。

- 1 ページの「設置作業の概要」
 - 3 ページの「出荷キットの内容確認」
 - 3 ページの「Sun Advanced Lights Out Manager ソフトウェアの使用」
-

設置作業の概要

この節では、設置作業の概要について説明します。作業の各手順には、完了する必要がある適切な手順の参照先が示されています。各手順は順番に完了する必要があります。

1. 電源、スペース、および環境の要件に従って、設置場所を準備します。

サーバーを新しい Sun ラックに取り付ける場合は、設置場所の準備を全面的に行う必要があります。サーバーを既存のラックに取り付ける場合は、追加の電源要件および環境要件を満たすように、設置場所の準備をいくつか実施する必要があります。特定の手順については、『Sun Fire V210 および V240 サーバーご使用の手引き』を参照してください。

2. 部品がすべてそろっていることを確認します。

Sun Fire サーバーは、いくつかのパッケージで出荷されます。出荷キットの一覧については、3 ページの「出荷キットの内容確認」を参照してください。

3. サーバーをラックに取り付けます。

このマニュアルで説明する力仕事は、ラックスライドおよびケーブル管理アーム (CMA) の取り付けがほとんどです。このリリースの Sun Fire サーバーには新しいラックスライドが含まれているため、スライドの取り付けは以前のリリースとは大きく異なります。また、以前の Sun Fire V210 および V240 サーバーに付属していたラック搭載用のポスターは、このマニュアルに変更になりました。具体的な手順については、6 ページの「スライドレールの取り付け」を参照してください。

4. サーバーと一緒に出荷されたオプションの部品がある場合は、これを取り付けます。

このマニュアルでは、オプションの部品の取り付け手順については説明していません。オプションの部品の取り付け手順に関しては、『Sun Fire V210 および V240 サーバー管理マニュアル』を参照してください。

5. サーバーとの通信用にコンソールを設定します。

Sun Fire サーバーとの通信は、ほかのサーバーからの Tip 接続を使用するか、または SERIAL MGT ポートに ASCII 端末を接続して行います。コンソールを設定するには、『Sun Fire V210 および V240 サーバー管理マニュアル』を参照してください。

6. サーバーに電源を入れて、設定します。

サーバーには、Solaris 10 オペレーティングシステム (Solaris OS) および Java™ Enterprise System がプリインストールされています。サーバーに電源を入れると、自動的に Solaris OS の設定手順に進みます。ただし、その前に、プリインストールされているソフトウェアの Web サイトにアクセスして、最新のアップデートおよびパッチを確認する必要があります。

サーバーに電源を入れてプリインストールされているソフトウェアを構成するには、17 ページの「サーバーへの電源投入」を参照してください。

7. 必要な OpenBoot PROM 構成オプションを設定します。

初期起動ではシステム全体がテストされます。テストのレベルを変更するには、OpenBoot PROM コマンドおよび構成変数を使用します。起動テストのレベルおよびその他の起動変数を変更するには、『OpenBoot PROM Enhancements Operations』を参照してください。

8. Solaris メディアキットから追加ソフトウェアをインストールします (任意)。

Solaris OS メディアキットには、サーバーの運用、構成、および管理を支援するためのソフトウェアを収録した複数の CD が含まれています。収録されているすべてのソフトウェアの一覧および詳細なインストール手順については、メディアキットに付属するマニュアルを参照してください。

出荷キットの内容確認

このサーバーには、いくつかの部品が付属しています。出荷キットにすべての部品が含まれていることを確認してください。足りない部品がある場合は、ご購入先にお問い合わせください。

- ラックマウントキット
- Cat5 RJ-45 ケーブル
- 付属品キット
 - システムキー (V240 サーバーのみ)
 - 静電気防止用リストストラップ
 - RJ-45/DB-9 アダプタ
 - RJ-45/DB-25 アダプタ
 - Sun の製品マニュアル

注 - 出荷キットの内容は、注文したオプションによって異なる場合があります。一覧で記載したような基本的な部品がすべて出荷キットに含まれていることを確認してください。

Sun Advanced Lights Out Manager ソフトウェアの使用

Sun Fire V210 および V240 サーバーは、Sun Advanced Lights Out Manager (ALOM) ソフトウェアがインストールされた状態で出荷されます。システムコンソールは、デフォルトで ALOM に接続され、起動時にサーバーコンソールの情報を表示するように設定されています。

ALOM を使用すると、SERIAL MGT ポートを使用したシリアル接続、または NET MGT ポートを使用した Ethernet 接続のいずれかを介してサーバーを監視および制御できます。

注 - 「SERIAL MGT」のラベルが付いた ALOM のシリアルポートは、サーバー管理専用のポートです。汎用シリアルポートが必要な場合は、「10101」のラベルが付いたシリアルポートを使用してください。

ALOM は、サーバーまたは ALOM に関連するハードウェア障害およびその他のイベントを、電子メールで通知するように設定できます。

ALOM 回路は、サーバーのスタンバイ電力を使用します。そのため、次の動作が可能です。

- ALOM は、サーバーが電源に接続されるとすぐに動作し、電源ケーブルを外して電力を切断するまで動作し続けます。
- ALOM は、オペレーティングシステムがオフラインで、サーバーがスタンバイモードになっているときにも動作し続けます。

ALOM の詳細は、『Sun Advanced Lights Out Manager Software User's Guide』を参照してください。

第2章

ハードウェアの取り付け

この章では、Sun Fire V210 および V240 サーバーをラックに取り付けてケーブルを接続する方法について説明します。この章は、次の節で構成されています。

- 5 ページの「ラックマウントキットの内容」
- 5 ページの「使用できるラック」
- 6 ページの「スライドレールの取り付け」
- 10 ページの「ケーブル管理アームの取り付け」

ラックマウントキットの内容

ラックマウントキットには、次の部品が含まれています。

- スライド部品
- スペーサ工具
- ケーブル管理アーム
- ねじキット

使用できるラック

スライドレールキットを使用すると、サーバーを Sun のラックに搭載できます。使用できるすべてのラックの一覧については、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.sun.com/servers/>

注文可能なスライドレールオプションを使用してサーバーを4ポストラックに取り付けるには、この章の手順を記載されている順に実行します。このスライドレールセットは、Sun Fire V210 および Sun Fire V240 サーバーの両方に対応するように設計されています。これらのスライドレールは、次の基準を満たすさまざまな装置ラックで使用できます。

- 4ポスト構造である (正面および背面の両方に搭載)。2ポストラックには使用できない。
- ラックの水平方向の開口部とユニットの垂直方向のピッチが ANSI/EIA 310-D-1992 または IEC 60927 規格に準拠している。
- 正面と背面の取り付け面の間隔が 610 ~ 915 mm (24 ~ 36 インチ) である。
- 正面の取り付け面から手前側の、キャビネットの正面ドアまでの距離が 25.4 mm (1 インチ) 以上である。
- 正面の取り付け面から後ろ側の、キャビネットの背面ドアまでの距離が 800 mm (31.5 インチ) 以上、ケーブル管理アームを取り付けない場合は 700 mm (27.5 インチ) 以上である。
- 正面の取り付け面と背面の取り付け面の間の、構造支柱とケーブルの溝との間の距離が 456 mm (18 インチ) 以上である。

注 – 図では Sun Fire V210 サーバーを示していますが、これらの手順は Sun Fire V240 サーバーにも適用されます。



注意 – 上部の重みでラックが転倒しないように、装置は常にラックの下から順に取り付けてください。装置の設置作業中にラックが倒れないように、転倒防止バーを使用してください。

スライドレールの取り付け

この節では、スライドレール部品をラックに取り付けて、ラックに取り付けたスライドレール部品に、固定部品を使用してサーバーシャーシを搭載する手順について説明します。

▼ スライドレールを分解する

1. スライドレールを開梱します。

2. 図 2-1 に示すように、1 つのスライドレール部品の正面側にあるスライドレールロックの位置を確認します。
3. ロックの上下の爪を強くつまんだ状態で、レール止めに届くまでスライドレール部品から固定部品を引き出します。詳細は、図 2-1 を参照してください。
4. 図 2-1 に示すように、固定部品のリリースボタンを固定部品の正面方向に引きながら、同時に固定部品をスライドレール部品から引き出します。
5. 残りのスライドレール部品に対しても同じ作業を繰り返します。

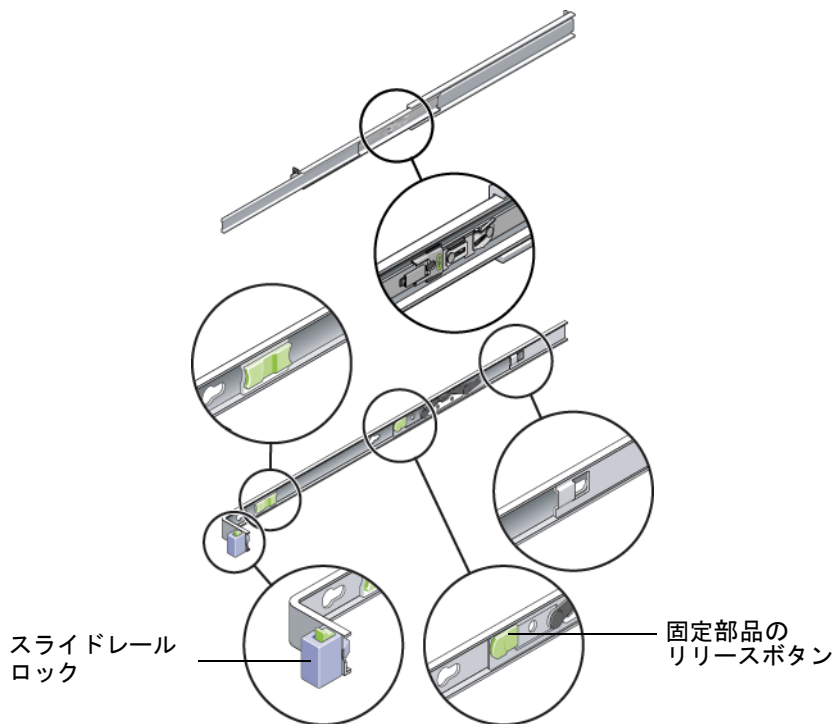


図 2-1 取り付け前のスライドレールの分解

▼ 固定部品をサーバーに取り付ける

1. スライドレールロックがサーバーの正面側になり、固定部品の 3 か所のはめ込み式の穴がシャーシ側面の 3 つのねじ穴にそろるように、固定部品をシャーシに配置します。
2. 提供されているねじを使用して、スライドレールをサーバーに取り付けます。

3. 手順 1 および 2 を繰り返して、もう一方のスライドレールも取り付けます。

▼ スライドレール部品をラックに取り付ける

1. 図 2-2 に示すように、スライドレール部品の両端の留め具が正面および背面のラックポストの外側に位置するように、スライドレール部品をラックに配置します。
2. スライドレール部品をラックポストに取り付けます。
スライドレールの取り付け方法は、ラックの種類によって異なります。
 - 使用しているラックのラックポストに取り付け用ねじ穴がある場合は、ねじ山の単位がメートルまたはインチのどちらであるかを確認してから、正しい取り付けねじをスライドレールの留め具を通してねじ穴に挿入します。
 - 使用しているラックに取り付け用ねじ穴がない場合は、スライドレールの留め具とラックポストの両方に取り付けねじを挿入してから、ケージナットで固定します。

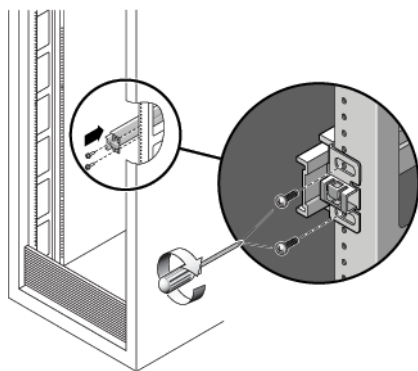


図 2-2 ラックポストへのスライドレール部品の取り付け

3. 残りのスライドレール部品に対して同じ作業を繰り返します。

▼ サーバーをスライドレール部品に取り付ける



注意 – サーバーはかなりの重量があるため、この手順は 2 人以上で行う必要があります。この手順を単独で実行しようとすると、装置の故障や事故が発生する可能性があります。

1. スライドレール部品に、スライドレールをできるかぎり押し込みます。

2. サーバーを持ち上げて、固定部品の背面側の端と、装置ラックに取り付けられているスライドレール部品の位置を合わせます (図 2-3 参照)。
3. 固定部品をスライドレールに差し込み、固定部品がスライドレール止めで止まるまで、サーバーを 30 cm (12 インチ) ほどラックに押し込みます。

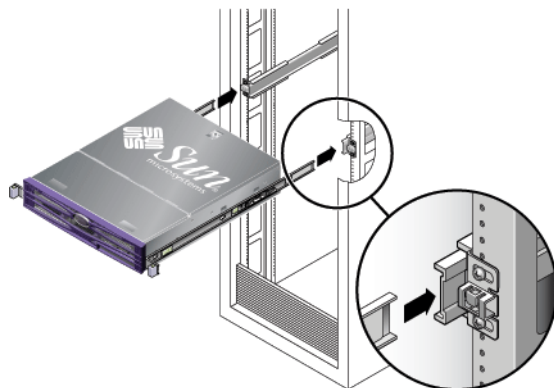
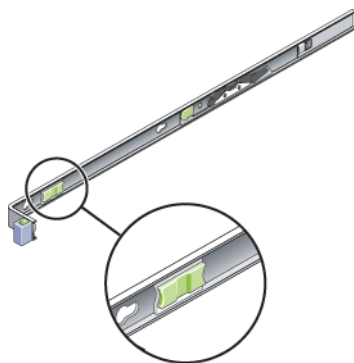


図 2-3 固定部品を取り付けたサーバーのスライドレールへの挿入

4. 各固定部品のスライドレールリリースボタンを引きながら、同時にサーバーをラックに押し込みます (図 2-3 を参照)。



5. 固定部品の正面側にあるスライドレールロックがスライドレール部品とかみ合うまで、サーバーをラックに押し込みます。



注意 – 次の手順へ進む前に、サーバーがしっかりとラックに搭載され、スライドレールロックが固定部品とかみ合っていることを確認してください。

ケーブル管理アームの取り付け

この節では、オプションのケーブル管理部品 (CMA) の取り付け、ケーブルの配線と接続、および CMA の動作確認の手順について説明します。

▼ ケーブル管理部品を取り付ける

1. CMA 部品を開梱します。
2. CMA を装置ラックの背面に運び、サーバーの背面に十分な作業スペースがあることを確認します。

注 - この手順での「左」または「右」という表現は、装置ラックを背面から見ていることを前提としています。

3. CMA レール拡張部品を取り出し、カチッという音を立てて所定の位置に固定されるまで、拡張部品を左側のスライドレールに差し込みます (図 2-4)。

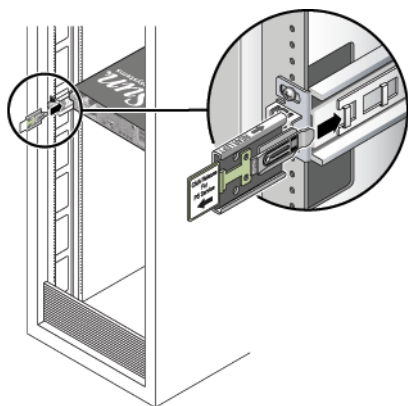


図 2-4 左側スライドレールの背面部分への CMA レール拡張部品の挿入

注 - 残りの取り付け手順は、CMA を支えながら行なってください。3 か所の接続点をすべて固定するまで、部品がそれ自体の重さでぶら下がらないようにしてください。

4. CMA の固定部品のコネクタを、カチッという音を立てて所定の位置に固定されるまで、右側のスライドレールに差し込みます (図 2-5)。

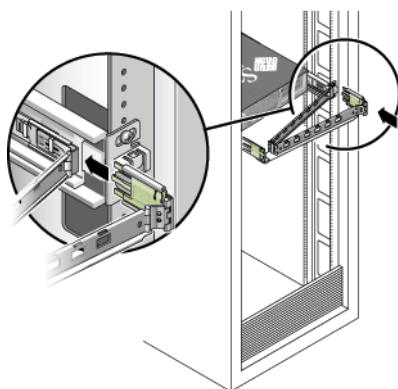


図 2-5 右側スライドレールの背面部分への CMA 固定部品の挿入

5. 残りの CMA アームのコネクタを、CMA レール拡張部品のプラスチック製の接合部に差し込みます (図 2-6)。

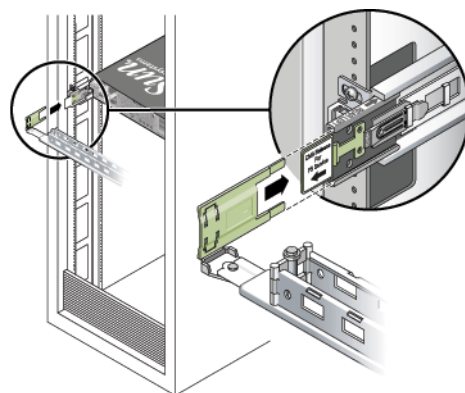


図 2-6 レール拡張部品のコネクタへの CMA アームの接続

6. ケーブルハンガーを CMA の適切な取り付け穴に配置して、所定の位置にはめ込みます (図 2-7)。

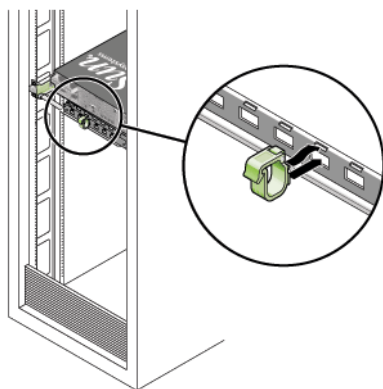


図 2-7 CMA ケーブルハンガーの取り付け

7. 必要に応じて、ケーブルをサーバーに取り付けます。
サーバーの正面および背面の電源差し込み口および入出力ポートの位置については、『Sun Fire V210 および V240 サーバーご使用の手引き』を参照してください。
8. ケーブルを CMA ケーブルハンガーに通して配線します。

▼ スライドレールおよび CMA の動作を確認する

注 - この手順は、2 人で行うことをお勧めします。1 人がサーバーをラックから出し入れし、もう 1 人がケーブルおよび CMA の動作を確認します。

1. スライドレールがレール止めに届くまで、サーバーをラックからゆっくりと引き出します。
2. 接続されているケーブルのからまりやねじれを調べます。
3. CMA が完全に引き出され、スライドレールの途中でつかえていないことを確認します。
4. 次の手順に従って、サーバーをラックに押し戻します。
サーバーが完全に引き出されている場合は、サーバーをラックに戻すために 2 組のスライドレール止めを解除する必要があります。

- a. 1 組めのスライドレール止めは、各スライドレールの内側にあるレバーで、サーバーの背面パネルのすぐ後ろにあります。これらのレバーには、「PUSH」というラベルが付いています。両方のレバーを同時に押して、サーバーをラックの方向にスライドさせます。

サーバーは、約 38 cm (15 インチ) 移動すると止まります。

次の手順に進む前に、ケーブルおよび CMA がつかえることなく元の位置に戻ることを確認してください。

- b. 2 組めのスライドレール止めは、各固定部品の正面近くにあるスライドレールのリリースボタンです。詳細は、図 2-3 を参照してください。両方のスライドレールのリリースボタンを同時に押すかまたは引きながら、両方のスライドレールのロックがかみ合うまでサーバーをラックへ完全に押し込みます。

5. 必要に応じて、ケーブルハンガーおよび CMA を調整します。

第3章

サーバーの電源投入と設定

この章では、目的に応じたサーバーへの電源投入方法および設定方法について説明します。この章は、次の節で構成されています。

- 15 ページの「状態インジケータの理解」
- 17 ページの「サーバーへの電源投入」
- 20 ページの「サーバーの設定」
- 23 ページの「Sun Advanced Lights Out Manager ソフトウェアへのアクセス」

状態インジケータの理解

サーバーの電源を入れる前に、サーバー自体やさまざまな部品に関連付けられている LED インジケータについて理解しておいてください。サーバーの状態インジケータは、ベゼルおよび背面パネルの両方にあります。また、電源装置、Ethernet ポート、およびハードディスクドライブには、状態を示す LED インジケータが付いています。表 3-1 にインジケータの説明を示します。

表 3-1 サーバーの状態インジケータ

インジケータ	LED の色	LED の状態	意味
動作状態	緑色	点灯	サーバーに電源が入っており、Solaris OS が動作しています。
		消灯	電源が入っていないか、Solaris OS が動作していません。
保守要求	黄色	点灯	サーバーの障害が検出されました。保守作業員による調査が必要です。
		消灯	サーバーの障害は検出されていません。
ロケータ	白色	点灯	ラック内のほかのサーバーと区別するために点灯します。

表 3-2 ハードドライブのインジケータ

インジケータ	LED の色	LED の状態	部品の状態
動作状態	緑色	点滅	SCSI トランザクションの転送中です。
		消灯	動作していません。
取り外し可能	青色	点灯	取り外す準備ができました。
		消灯	取り外す準備ができていません。

表 3-3 ネットワークリンクインジケータ

LED の色	LED の状態	ネットワークリンクの状態
緑色	点灯	リンクが確立されています。
	点滅	データの転送中です。
	消灯	リンクは確立されていません。

表 3-4 ネットワーク速度インジケータ

LED の色	LED の状態	ネットワーク速度の状態
緑色	点灯	ネットワークリンクが確立されて、サポートする最高速度で動作しています。
	消灯	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークリンクインジケータが点灯している場合は、ネットワークリンクは確立されていますが、サポートする最高速度では動作していません。 ネットワークリンクインジケータが消灯している場合は、ネットワークリンクは確立されていません。

サーバーへの電源投入

サーバーに電源を入れるには、正面ベゼルの後ろにあるオン/スタンバイボタン、またはキーボードを使用します。キーボードから電源を入れると、サーバーの電源が入ったときにシステムの出力を確認できます。

ここで説明する手順を始める前に、キースイッチが標準位置にあることを確認してください。キースイッチがこの位置にあると、オン/スタンバイボタンでサーバーの電源の状態を制御できます。キースイッチの操作の詳細については、『Sun Fire V210 および V240 サーバー管理マニュアル』を参照してください。

Sun Fire V210 サーバーには、キースイッチはありません。

▼ キーボードを使用して電源を入れる

1. サーバーを電源装置に接続します。

電源に接続すると、サーバーは自動的にスタンバイ電力モードになります。

2. SERIAL MGT ポートへの接続を設定します。

詳細は、『Sun Fire V210 および V240 サーバー管理マニュアル』を参照してください。

はじめて電源を入れたあとに ALOM プロンプトに切り替えたときは、管理者ユーザーとしてのログインとなり、パスワードの設定を求めるプロンプトが表示されます。一部のコマンドは、このパスワードを設定しないと実行できません。

3. パスワード指定のプロンプトが表示されたら、管理者ユーザーのパスワードを設定します。

パスワードは、次の条件を満たす必要があります。

- 2 文字以上の英字が含まれていること
- 1 文字以上の数字または特殊文字が含まれていること
- 6 文字以上の文字列であること

パスワードを設定すると、管理者ユーザーには完全なアクセス権が与えられて、すべての ALOM コマンド行インタフェース (CLI) のコマンドを実行できるようになります。

4. サーバーに接続されているすべての周辺デバイスおよび外部記憶デバイスの電源を入れます。

詳細は、各デバイスに付属するマニュアルを参照してください。

5. コンソールのプロンプトで、次のコマンドを入力してサーバーに電源を入れます。

```
sc> poweron
```

6. コンソールのプロンプトで、次のように入力してサーバーにアクセスします。

```
sc> console
```

▼ オン/スタンバイボタンを使用して電源を入れる



注意 – システムの電源が入っているときに、システムを移動しないでください。移動すると、修復不可能なハードドライブ障害が発生することがあります。システムを移動する前に、必ず電源を切ってください。

1. サーバーを電源装置に接続します。
電源に接続すると、サーバーは自動的にスタンバイ電力モードになります。
2. サーバーに接続されているすべての周辺デバイスおよび外部記憶デバイスの電源を入れます。
詳細は、各デバイスに付属するマニュアルを参照してください。
3. 正面ベゼルを開きます。
4. (Sun Fire V240 のみ) キースイッチにシステムキーを差し込んで、標準または診断の位置に設定します。
5. オン/スタンバイボタンを押します。

6. (Sun Fire V240 のみ)
 - a. キースイッチをロック位置に回します。
これによって、誤ってシステムの電源が切断されることを防ぎます。
 - b. キースイッチからシステムキーを外して、安全な場所に保管します。
7. 正面ベゼルを閉じます。

▼ オン/スタンバイボタンを使用してシステムの電源を切る

注 – システムの停止を正しく行わないと、Solaris OS で動作中のアプリケーションに悪影響を与える場合があります。システムの電源を切る前に、すべてのアプリケーションを正しく停止しておいてください。

1. システムの電源を切ることをユーザーに通知します。
2. 必要に応じて、システムファイルとデータのバックアップを取ります。
3. (Sun Fire V240 のみ) キースイッチが標準または診断の位置にあることを確認します。
4. 正面ベゼルの後ろのオン/スタンバイボタンを押してすぐ離します。
システムは、ソフトウェアによる正常な停止を開始します。

注 – オン/スタンバイボタンを押してすぐ離すと、ソフトウェアによる正常な停止が実行されます。スイッチを4秒間押し続けると、ハードウェアによる即時停止が実行されます。可能な限り、正常な停止を実行してください。ハードウェアによる即時停止を強制すると、ディスクドライブが破壊されてデータを損失する恐れがあります。

5. フロントパネルの緑色の LED が消灯するまで待ちます。
6. (Sun Fire V240 のみ) キースイッチからシステムキーを外して、安全な場所に保管します。
7. サーバーへのコンソールセッションを設定します。
コンソールセッションの設定手順については、『Sun Fire V210 および V240 サーバー管理マニュアル』を参照してください。

サーバーの設定

Sun Fire サーバーは、Solaris 10 OS および Java Enterprise System がハードドライブにプリインストールされた状態で出荷されます。サーバーの電源をはじめると、一連の質問が表示され、設定手順に進みます。設定手順は、いくつかの質問で構成されています。この質問に答えることで、サーバーの構成が決まります。

OpenBoot PROM 4.16.2 のリリースでは、診断がデフォルトで使用可能になります。これによって、初期起動時、およびエラーまたはリセットイベント後に、完全な診断テストが確実に実行されます。この変更により、起動時間は長くなります。初期起動後および最初にサーバーを構成したあとに診断設定を変更するには、出荷キットの『OpenBoot PROM Enhancements for Diagnostic Operation』を参照してください。

次の中から使用するシステムの構成にもっとも適した項目を選択して、その説明に従ってサーバーの電源を入れて設定を行なってください。

- 20 ページの「ネームサーバーに登録されているサーバーの詳細情報を利用して設定する」
- 21 ページの「ネームサーバーに登録されているサーバーの詳細情報を利用せずに設定する」
- 22 ページの「スタンドアロンサーバーをはじめて設定する」
- 22 ページの「構成情報を消去する」

▼ ネームサーバーに登録されているサーバーの詳細情報を利用して設定する

注 – ここに示す手順は、ネットワークにネームサーバーが接続されている場合にのみ行なってください。ネームサーバーを使用して、複数のサーバー上の Solaris オペレーティング環境の設定作業を自動化する方法については、Solaris オペレーティング環境の CD に付属する『Solaris 8 のインストール (上級編)』を参照してください。

起動中にいくつかの情報の入力が必要とされます。ここで入力した情報によって、サーバーの構成が決まります。

1. サーバーとの通信に使用する端末の種類を指定します。
2. IPv6 を使用可能にする必要があるかどうかを指定し、画面に表示される指示に従います。
3. Kerberos セキュリティ機構を使用可能にするかどうかを指定し、画面に表示される指示に従います。

4. パスワードの入力を求められたら、スーパーユーザーとしてログインするユーザーのパスワードがある場合はそれを入力します。

▼ ネームサーバーに登録されているサーバーの詳細情報を利用せずに設定する

ここに示す手順は、ネットワークにネームサーバーが接続されていない場合に行なってください。

参考 – ここに示す手順を行う前に、説明をひととおり読んで、はじめて起動したときにシステムに入力する情報を確認しておいてください。

起動中にいくつかの情報の入力が必要です。ここで入力した情報によって、サーバーの構成が決まります。

1. サーバーとの通信に使用する端末の種類を指定します。
2. サーバーをネットワークに接続するかどうかを確認する質問が表示されたら、Yes と答えます。
プロンプトが表示されたら、手動で IP アドレスを入力する必要があります。
3. IP アドレスを DHCP によって設定するかどうかを指定します。
4. プライマリ Ethernet 接続として使用する Ethernet ポートを指定します。
5. サーバーのホスト名を指定します。
6. 入力を求められたら、システムの IP アドレスを入力します。
手順 3 で DHCP 設定を選択しなかった場合は、IP アドレスの入力を求められます。また、サーバーをサブネットに含めるかどうかを質問されます。Yes と答えると、サブネットマスクの入力を求められます。
7. IPv6 を使用可能にする必要があるかどうかを指定し、画面に表示される指示に従います。
8. Kerberos セキュリティ機構を使用可能にするかどうかを指定し、画面に表示される指示に従います。
9. サーバーが使用するネームサービスを指定します。
10. サーバーが属するドメインの名前を指定します。
11. システムがネットワーク上でネームサーバーを検索するか、または特定のネームサーバーを使用するかを指定します。

12. 特定のネームサーバーを使用する場合は、そのネームサーバーのホスト名および IP アドレスを指定します。
13. ネームサーバーのネットワーク管理ファイルに、設定しているシステムのエントリーを作成します。
14. 設定しているシステムで、プロンプトに従って日時情報を入力します。
15. パスワードの入力を求められたら、スーパーユーザーとしてログインするユーザーのパスワードがある場合はそれを入力します。

▼ スタンドアロンサーバーをはじめて設定する

1. サーバーとの通信に使用する端末の種類を指定します。
2. サーバーをネットワークに接続するかどうかを確認する質問が表示されたら、No と答えます。
3. サーバーのホスト名を指定します。
4. これまでに入力した情報を確認します。
5. 日時情報を入力します。
6. パスワードの入力を求められたら、スーパーユーザーとしてログインするユーザーのパスワードがある場合はそれを入力します。

構成情報の消去

サーバーを未使用時の状態に戻して最初から電源投入処理をやり直すには、サーバーの構成情報を消去する必要があります。

▼ 構成情報を消去する

1. Solaris OS のプロンプトで、次のように入力します。

```
# sys-unconfig
```

2. 「空の」サーバーを作成することの確認を求められたら、y を入力します。

3. OpenBoot PROM プロンプトが表示されたら、次のように入力します。

```
ok> boot
```

4. 次のいずれかの手順を実行します。
 - 20 ページの「ネームサーバーに登録されているサーバーの詳細情報を利用して設定する」
 - 21 ページの「ネームサーバーに登録されているサーバーの詳細情報を利用せずに設定する」
 - 22 ページの「スタンドアロンサーバーをはじめて設定する」

Sun Advanced Lights Out Manager ソフトウェアへのアクセス

この節では、Sun Advanced Lights Out Manager (ALOM) ソフトウェアの概要について説明します。ALOM の詳細な説明および構成情報については、『Sun Advanced Lights Out Manager Software User's Guide』を参照してください。

ALOM ソフトウェアは、サーバーにプリインストールされており、サーバーに電源を入れるとすぐに起動します。ただし、いくつかの基本的な設定手順を実行して、使用するアプリケーションに合わせて ALOM ソフトウェアをカスタマイズする必要があります。

▼ ALOM プロンプトを表示する

1. デフォルトのキーストロークシーケンスを入力します。

```
# #.
```

注 – はじめて電源を入れて ALOM プロンプトに切り替えるときには、管理者ユーザーでのログインとなり、パスワードの設定を求めるプロンプトが表示されます。一部のコマンドは、このパスワードを設定しないと実行できません。

2. パスワード指定のプロンプトが表示されたら、管理者ユーザーのパスワードを設定します。

パスワードは、次の条件を満たす必要があります。

- 2 文字以上の英字が含まれていること
- 1 文字以上の数字または特殊文字が含まれていること
- 6 文字以上の文字列であること

パスワードを設定すると、管理者ユーザーには完全なアクセス権が与えられて、すべての ALOM CLI コマンドを実行できるようになります。

▼ コンソールプロンプトを表示する

- 次のように入力します。

```
sc> console
```

サーバーコンソールのストリームには、同時に複数の ALOM ユーザーが接続できませんが、コンソールに文字を入力できるユーザーは 1 人だけです。

ほかのユーザーがログインして書き込み権限を持っている場合には、console コマンドを実行したときに次のメッセージが表示されます。

```
sc> Console session already in use. [view mode]
```